



【発行所】
 財団法人長寿会
 小田原市入生田475
 TEL.0465-24-0002(代)
 発行人/加藤伸一
 編集/夢編集委員会

もくじ

気まぐれ日記より……………	2
長寿園を訪れる鳥	
「ガビチョウ(画眉鳥)」……………	3
大自然の中の長寿園……………	4
みかんの花……………	4
三十一年のあゆみ……………	5
長寿園の日々……………	6

長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき
 高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことよって社会に貢献します。

歩み来し方



入居者 中野義弘・一枝

だつて散歩出来る
 ようになっていた。
 歩ける距離も次第
 に延びていった。

谷川の小さき滝
 の草むらより沢
 蟹群れて小路横
 切る
 細道に熟れしみ
 かんの枝しない
 赤マンマ野茨な
 ずな花咲く

二回の体験入居を経て、私たちが長寿園への入居を申し込んだのは平成十八年九月だった。新年は長寿園で迎える計画だったが、身辺整理が終わろうとした時、私は激しい腰痛で動けなくなった。検査の結果、妻と同じ脊柱管狭窄症と診断され、神経ブロックのための薬が処方された。なんとか歩けるようになった時には年が明けていた。私たちが娘に付き添われて長寿園にたどり着いたのは平成十九年一月十日だった。私は次の一首を添えて、旧友に転居通知を出した。

箱根路に生命果てむと移り来ぬ
 茫々たり吾の八十三年
 私の腰の痛みは徐々に和らぎ
 妻の症状が悪化することはなかった。
 そんな私たちが園の人々は
 あたたかく見守ってくださった。
 木々の芽吹く頃には、連れ

妻がこんな歌を詠んだのはその頃であった。
 平成二十二年一月、妻が白内障の手術を受けた。右目の手術は成功したが、左目の手術は眼

内レンズが挿入できず失敗、視力を失った。主治医・執刀医の説明にも示された今後の措置にも納得できず、妻は医師と医師への不信を深めていった。老後のこの種の不信はつらい。白内障を甘くみていたことを後悔しながら、経験者のアドバイスを受け関係書も読んだ。他の医師の診察も受けた。その結果、転医を決意、再手術を受け、ようやく光を取り戻すことができた。しかし、妻は明らかに体力を衰えさせていた。
 私は平成二十三年秋の叙勲で受賞、瑞宝双光章をいただいた。それは三十年余にわたる公務員としての勤務に対するもので、過去の自分と向き合うことになった。組織を去る時の挨拶状に

「大過なく」という言葉を選ぶことができず、次の一首を添えて謝辞としたことを思い出した。

怠りし日にさへ庇ひくださり
き継り歩み来て今に到りぬ

そんな足跡が消えようとする時、思わぬ光が当てられ面映い思いをかみしめた。

長寿園ではいくつかのクラブ活動が行われている。私たちが揃って入っているのは書道会。机を並べ指導を受けている。「大きく腕を振って」と注意される私。「こうしたらもっと良くなる」と教えられる妻。

残り少くなりし余白を埋める
ごと生き継ぐ日々を書きてゆかむよ

上達は難しいけれど、書き続けていこうと思っているふたりである。



気まぐれ日記より

入居者家族 山崎 香澄

そして沈黙…。ランチタイムも遙かに過ぎて何杯めかの紅茶を飲みながら、こんなに静かな「時」を共有できる日々が来ようとは思ってもみないことでした。

私の幼い頃、母は早朝からキリリとエプロンをし、背中をピンと伸ばして家事にとりかかり、日々の買い物などに出かけると母の後ろを小走りに追いかけるような様でした。ですから今、まさに至福の時を過ごしているといえます。

母の部屋の窓の外は、相模湾が紺碧に輝き、夏には花火が上がる日もあります。悠々と空を鳶が旋回し、満月の夜にお月見をしながら寝入ってしまうこともあるらしいですし、周囲の森が折々の色を紡ぎ、その透き間から生まれる雲を眺めるなど見飽きることはありません。「この毎日は絵にもならない、写真に

も残せない、でも私の心にはしっかりと残ります」と母は書き溜めています。そしてまた「その時思いついたことをする。歌を口遊んでは小さな片付けことをする。食べたいものを食べる。美味しい物を食べるのは口福？

読みたい本を読む」「ベッドでゴロゴロしてぼんやりしているのが気持ちの良い日々」ともあり、几帳面と気まぐれの相容れた自由を満喫している様子です。

昨年の七夕の短冊に「今の気持ちのまま
でこれからも
人生を過ごしたい」星を見て
思います。
人間はいつまでも輝いては
いられません。
静かな心で暮

らすホームの毎日です」と私の方からいろいろと想像するまでもなく「今」を大事に過ごせること、有難さを知ることができました。

「長寿園はめまぐるしい世の中とは別世界でいつも平穏です。原宿（旧宅）も大変いろいろな事情が変わっているようで、老居を聖地に移して良かったと思つています」

この地での暮らしを日記風な手紙に書き溜めて知らせてきます。それも「気まぐれ」に……ご入居者のお隣様も案外、お近しいお気持ちでいらつしやるのかもしれませんね。



長寿園を訪れる鳥

「ガビチョウ(画眉鳥)」

入居者 高津 学



入居した頃に近くの森で今まで聞いたことのない、賑やかに打つ岸井声で語るように長々と鳴き続ける鳥がいて、すごく気になった。近くで鳴いているのに姿が見えない。何度も追っかけて、やっとその正体を見た。

ムクドリくらいの大ささで腹部が暗茶色。背が黒紫色、嘴がホトトギスのように細長く、目の周囲がメジロのように白くて、オスはずんぐり、雌は細身である。賑やかに鳴いているのに誰に聞いてもその鳥の名はわからなかった。

箱根の森ふれあい館に展示の鳥の剥製を見に行ったが、その中にいなかった。

目を改めて、湖尻にある環境庁ビクターセンターを訪れた。ここには箱根の鳥の絵があり、

ポイントを指すと、その鳥の鳴き声を聞く事ができるようになっていたが、その中にもいなかった。パソコンの三十種ほどの写真の中にもいなかった。

環境庁職員の所員に尋ねると、中国から輸入した二種類の飼鳥の写真を見せてくれた。それでやっとこの鳥が外来種の「ガビチョウ」であることが判った。逃げ出して繁殖している外来種であることがわかった。

四川省からと言うからには蛾眉山の蛾の字ではと言ってみたが、この点は不明だった。後にインターネットで調べたら中国南部から台湾あたりにいる「画眉鳥」であることがわかった。

昨年の初夏の頃から雌の鳥、屋上やベランダにまでやってきて、大きな声で鳴き続けるよう

になった。他の鳥の鳴き声も真似る事もできるようだ。それで泣き方は説明しにくい。この侵略者に押されたのか、賑やかに群がっていたスズメがいなくなると威嚇飛翔を繰り返す光景が見られるようになった。

この鳥が在来鳥のエサを奪ってしまうのではないかと所員が心配していたが、住まいまで侵略するのだろうか？困ったものである。

寒くなつてからは見なくなつた。入生田駅の近くの畑にいるのを一度見たことがあるが、鳴き声はなかった。

この乱入者は、今年は三月半ば、少し暖かくなつたら早速やってきて、夕方遅くまでB棟の屋上で二羽が呼応して鳴いている。また昨年は、夜九時頃にC棟の方向で鳴き声を聴いた。巣作りでも始めたのだろうか。気になることである。

もう一方の相思鳥は群れをなしていると言明されたが、見たことない。ただ一度B棟の屋上

にカラスにでも襲われたのか二羽の死体があった。
鳥の世界も生存競争で大変のようだ。

珍鳥もかごから出れば無法もの



川柳

入居者 小池 怜子

気遣いで堂々めぐりする話

隕石へ車載カメラの大手柄

飢え凌ぐ主役の頃もあった芋

大自然の中の長寿園

理事長 加藤 伸一

長寿園のあるここ入生田の地は江戸時代小田原城主稲葉氏の菩提寺黄檗宗紹太寺の境内でした。麓から箱根連山に続く尾根までの広大な範囲です。長寿園のすぐ裏の今ではミカン畑になっている平地に七堂伽藍の立派な本堂がありました。麓から続く三百段近い石段や樹齢三百年の枝垂桜が今もその面影を感じさせます。宇治の万福寺に次ぐ関東の大本山だったそうです。紹太寺の場所をここに決めたのは、おそらく相模湾を見下ろす風光明媚なことと、霊験あらたかな山裾ということからではなかったでしょうか。昭和十四年には当時の開発業者が「前箱根母の里健康分譲地」として大々的に開発をしましたが戦争のため戦後は農地となってしまいました。



裏山から長寿園・相模湾

最近の高齢者住宅は便利かも知れませんが、自然はなく景色も住宅しか見えない街中にはありません。高齢期に、自然の中で四季折々の草花や野鳥たちと過ごすことはそれだけで大きなエネルギーになると思います。人は自然の中において真にリラックスできるのではないのでしょうか。居ながらにして森林浴です。たまに、人工の森林浴装置や空気清浄器を販売に来る業者がいますが、まるで滑稽となります。

この地に長寿園があるというのはそういうわけからなのです。

「花」というと「さくら」を指すものときままっているらしい。それほど「さくら」は花の中の花、代表格をしめるもののようなのだ。

四月、花という花は一度に咲き出す。ここに入居するまで住んでいた京都は花の都である。そして我が家は「哲学の道」と呼ばれている山科流水沿いにあつて両側は桜並木で春は花にうもれていた。山吹も雪柳も満開になりきれいだつた。

ここへ来て初めて「ミカンの花」を見た。

朝十時頃運動不足解消のために「ミカン山」を歩くのが日課になった。ミカン山は園の裏側（西側）で一面にかなり大きなミカンの木がある。五月初旬頃であつただろうか、ミカンの木に白い小さな花が咲いているのを見つけた。ミカンは食べる果実しか知らなかつたので、この小さな花がミカンになるのかと興味

深く思つて毎日眺めていた。「ミカンの花」は五弁の花で白い花はやがて小さい緑色の実になってゆく。だんだん大きくなってミカンらしくなつてゆく。収穫の時期になると「ミカン狩り」があつて沢山とつたものを枝ごとペランダにおいておくと熟して美味しくなることも教えてもらった。

こんなにミカンと親しく接することは初めてで新鮮な驚きと喜びだつた。

「ミカンの花が咲いている……」と言う童謡があつたのを思い出した。園から出て少し急な坂道を登つて、ほっと一息つく所に立つと、歌詞のよう

うに海がのぞめる。時には船も浮かんでいたりした。

人は生まれた瞬間から死へ向かつて歩き出すと言ふ。

もう八十路を過ぎて終着点も近い。これからおだやかな日々であることを心から願っている。

花に寄せて 5月の花 みかんの花

入居者 渡辺 千萬子



31年のあゆみ

生活課ヘルパー
楠元信子

一九八二年夫の転勤にて小田原に住むことになりました。右も左も分からない中、一枚の求人広告に目が止まり、ここから長寿園とのつながりとなりました。当初オープン

名、宿直も週一回（朝から翌日午後二時勤務）と休日でした。車の免許があるのでほとんどの病院回りをしていました。ある時はドクターに縫合するか

直後でしたので居室数の半数くらいのご入居者でした。

皆様はお元気でマイクロバスをよく利用され、ほぼ満席の状態でした。寮母としての仕事は食堂関係、館内清掃、居室清掃、入浴対応（一部B棟一階に寝たきりの方三名がおりました）入居者状況伺いと洗濯物回収、物品を届ける等々でした。寮母も七

らしっかり足をおさえなさいとか、映像を見ながら丁寧に説明して頂いたとき、とても良い勉強の場になりました。忙しい中にも充実した日々で勤務時間が十時間あったら良かったと思うくらいでした。

このような私を見て次長（現理事長）が少し気を抜くよう優しい言葉かけをして下さった事を忘れません。当時は玄関横（現在来客用駐車場）の土手とB棟、A棟土手の雑草の手入れ等全部職員の手で行っていました。草刈り機をかかえ先頭にたつて次長（現理事長）と、宿直代行やスコップを片手に道路清掃と、よく一丸となってやっております。長寿会全体（三施設）で五十名ほどのごちんまりとした人員。何をするのもまとまりも良く、皆が力を合わせた時代でした。

バブルのはじける前でもあり、入居者も増え待機の状態です。D棟建設当初から入居予約が多数ありました。この頃より「寮母」から「ヘルパー」と呼び名

も変更し、徐々に職員も増えてきました。行楽も観梅、観桜、つじ、菖蒲、紫陽花、紅葉とご入居者も大勢参加されていました。時の流れで介護保険が始まる為、介護棟（C棟）に移る方の引越しも全部ヘルパーの手で行い、ヘルパー室も三度動き現在に至っております。皆で結束してやり遂げました。

新しい時代への突入してからは書類に始まり書類に終わるだけでなく、ケア内容も濃く学習だけではなく実践して様々なニーズに合った対応（知識判断力、決断）を身につけて、ご入居者の皆様の円満幸福な生活を支援するのが私たちの役目なのです。この素晴らしい仕事こそ誇りをもって前に進んでほしい。これからも続く若人に伝達したい気持ちでいっぱいです。



生活課 楠元

俳句

入居者 青木千代

淡き色好む歳や寒童

八十路坂なにこともなく
春立ちぬ

しだれ桜眺めし日々や長寿園

長寿園60周年特別企画 入居金0プラン

自立・要支援・要介護の方へ

入居金0プランは月額で利用料をお支払い頂くプランです。居室タイプ・年齢により月額費用は異なります。詳しくはお問合せ下さい。

TEL:0120-737-757

長寿園の日々



豆まき



コーチャル歌声の部屋

- 2月3日 豆まき
- 2月27日 60周年第3回イベント
「二宮尊徳のよもやま話」
- 3月30日 お花見バイキング
- 3月31日 コーチャル歌声部屋
- 4月9日 春の行楽ロングコース
(スカイツリー)
- 4月17日 春の行楽ショートコース
(秩父宮記念公園)
- 4月20日 竹の子の狩り



春の行楽 ロングコース

春の行楽 ショートコース



お花見バイキング



60周年イベント



竹の子狩り



編集後記

今年の寒波は厳しく、桜の開花は遅いと誰もが思ったことではないでしょうか。しかし、ナンノナインー三月後半からは気温が上がリ、二十度を超える真夏日を迎えたところもあるほどでした。自然の力とは何たるものか。きっちり帳尻を合わせるがごとく、桜の開花も早まり三月中旬に満開を迎え、四月に入ってから雨と風で散り始めました。

長寿園の近くに咲き誇る「春日局の供養塔」でも有名な長興山の枝垂れ桜も三月中旬に満開となり、多くの観光客で賑わいました。

長寿園は自然環境に恵まれ、玄関周りや中庭には手入れの行き届いた花木が四季を楽しませてくれます。また、可愛らしい鉢植えは園内を彩り、季節の訪れを感じさせてくれます。

これからも長寿園で生活される方々が「長寿園に入って良かった」と思っていたできるように努力を重ねてまいります。